

No.	回数	意見内容	対応の考え方
1	1	令和5年度に施設利用者向けアンケートを予定されているが、スポーツ実施率の向上のためには、施設を利用していない方を対象にした一般区民対象のアンケートも必要ではないか。	予算も含めアンケート設計について検討する。
2	1	マインドスポーツ・eスポーツも含め、スポーツの捉え方・範囲によってスポーツ実施率は影響を受けるのではないか。	eスポーツも含めてスポーツの定義・範囲を検討する。
3	1	スポーツ施設のバリアフリー化について、車いす競技者のスポーツ実施環境の調査・把握が必要でないか。	障害者のスポーツ実施環境について調査・把握を行う。
4	1	障害者に対するスポーツ振興施策が進んでおり、今後の展開が期待されるのではないか。	推進の要因を分析して施策に反映する。
5	1	総合型地域スポーツ・文化クラブの会員数は横ばいであり、eスポーツなどの新たな活動内容も含め今後検討していく必要がある。	eスポーツへの関心も含めて調査・検討する。
6	1	スポーツ実施率について、国・都の定義の違いの確認した上で水準を合わせることが必要ではないか。また、「みる」「ささえる」に関連した目標値を設定できないか。	実施率の定義の確認を行う。また、成果指標の設定について、実施率以外にも検討する。
7	1	スポーツ観戦はQOLに貢献するものであり、大学・学校スポーツも含めて観戦機会の多様化を検討できないか。	スポーツ施設以外での観戦機会提供についても反映する。
8	1	プロチーム・選手の活躍も目立っており、観戦機会提供に寄与するのではないか。また、積極的な告知や支援などを検討してはいかがか。	連携について検討していく。
9	1	パラスポーツは健常者も障害者も共に取り組めるユニバーサルスポーツであることを意識してはどうか。	健常者もともにできるスポーツとして発信・施策検討していく。
10	1	家族でのスポーツ参加促進が、障害の有無を問わず、子どものスポーツ実施につながるのではないか。	家族・保護者をターゲットとした施策を検討する。
11	1	キャンプや温浴などの民間リクリエーション施設の機能もスポーツ施設に取り込んではどうか。	スポーツ施設の多機能化について検討する。
12	1	スポーツ実施率の低い若年単身世帯を対象とした施策として、深夜利用可能な温浴・トレーニング施設を整備してはどうか。	スポーツ施設の多機能化について検討する。
13	1	「多様な主体におけるスポーツの機会創出」は、特にDX・デジタル活用の視点で推進できるのではないか。それにより、スポーツに対する意欲はあるものの実施できていない層など、多様なニーズを受け止めていく必要があるのではないか。	DX・デジタル活用分野での施策・連携を検討する。
14	1	スポーツ実施には教育が重要である。子どもの頃から良い教育を受けていれば、自ずとスポーツを実施するようになるのではないか。	子どもたちのスポーツへのかかわりの多様化について施策への反映を検討する。
15	1	学校体育ではオリパラの影響もあり、ダンス、アーバンスポーツも含めて運動・スポーツに親しむ子どもが増えており、レガシー教育、ユニバーサルスポーツの観点が重要ではないか。また、ジェンダー平等など生涯スポーツの観点も重要ではないか。	子どもたちのスポーツへのかかわりの多様化について施策への反映を検討する。
16	1	eスポーツに相当する活動は多くの子どもに浸透している。どこからがスポーツなのかは難しいが、デジタル技術を活用した取り組みは有効ではないか。	子どもたちのスポーツへのかかわりの多様化について施策への反映を検討する。
17	1	全国で活躍する部活動種目に加えて、「ゆる部活」「軽スポーツ部」も広まっている。障害のある子どもの参加も含めて施策に反映できるのではないか。	子どもたちのスポーツへのかかわりの多様化について施策への反映を検討する。
18	1	女性、子育て世帯・勤労世帯などのターゲットを絞ったスポーツ実施率向上のため、特に情報提供に課題があるのではないか。	家族・保護者をターゲットとした施策を検討する。
19	1	昨年度の子どもの体力調査によると、パソコン・スマホ画面を一定時間見ている子どものほうが体力は高く、ライフスタイルは変化しているのではないか。	子どもたちのスポーツへのかかわりの多様化について施策への反映を検討する。
20	1	学校教育だけでなく、家庭・保護者世代にスポーツの価値を訴求することも効果的ではないか。	家族・保護者をターゲットとした施策を検討する。